

ちょっといい話

コラムは毎日新聞

来年退位される天皇陛下と皇后陛下を

深い感慨をもって見守ってきた人に米ホ

ワイトハウスの元女性儀典長

がいる。来月90歳になるセル

ワ・ルーズベルトさんは、レ

ーガン元大統領に1982年

から6年9カ月、仕えた。こ

の在任期間はまだ破られてい

ない最長記録である。セルワさんはレバノン移民で、米紙のジャーナリストをしていた時、儀典長の話が持ち込まれた。レーガン氏が大統領に就任して1年後で、ナ



西川 恵

kin-gon

金言

ンシー大統領夫人と共通の知人を紹介して懇意だったことがあったようだ。89年1月、ブッシュ氏（父）の大統領就任を機に退職した。

儀典長時代にセルワさんが強く印象付けられた思い出の一つに、天皇陛下、皇后陛下がまだ明仁皇太子、美智子妃だった87年10月の訪米がある。この訪問は、途中で昭和天皇の体調が悪化したため短縮されたが、彼女は米大統領個人代表として皇太子夫妻のポストン到着から、各地を回ってワシントンに行くまでの

儀典長が見た両陛下

8日間、全行程に付き添った。その時の模様を彼女は退職翌年に出版した「Keeper of The Gate（門の守護人）」で書いている。

「お二人はチャーミングな優しい物腰で、楽しそうに、また思慮深く人々と言葉を交わされました。各地で催されるレセプションではゆっくり歩を進められ、あいさつではなく、本当の会話をなさっていました。質問をしては、その答えに真剣に聴き入り、人々が周りを囲んでいるのも気づかれていないご様子でした」

「ワシントンで終末期患者のホスピスを訪れた時、美智子妃が年輩いた一人一人に示された優しさに、私は心を打たれました。儀典長在職中、仕事で涙がこぼれたのはこの1回だけで、涙を抑えるのに苦労しました」

「もう一つ感動したのは、国立アメリカ歴史博物館（ワシントン）を訪れ、第二次世界大戦中、日系人や日本人移民が強制収容所に入れられた当時の写真や資料を見て回った時のことです。皇太子は私に『このような展示を、それ

も国立の施設で行うことが米国の民主主義ですね』とおっしゃいました」

皇太子夫妻の帰国後、セルワさんは直筆のお礼状を受け取った。「国王、女王から直筆のお礼状をいただくことはありません。それだけに私のうれしさは余りあるものでした」。彼女が「君主の中で深く尊敬しているのは現在の天皇と皇后の明仁皇太子と美智子妃です」と語るのも故あることなのだ。（客員編集委員）